NEXT 20YEARS VISION

愛荘町グランドデザイン 2040

2023年 3月 愛荘町

2050

2040



2030

2020

この冊子のみかた

『愛荘町グランドデザイン 2040』は左右両開きの形式をとっており、愛荘町のこれからのまちづくりのビジョンを示す**計画編（グランドデザイン）**と、ビジョンが実現した将来の暮らしをビジュアルで描いた**マンガ編（マンガでよく分かる愛荘町グランドデザイン 2040）**の２部構成となっています。

冊子の左右から表紙を開いて、それぞれの内容をご覧ください。

左開き



計画編
（グランドデザイン）

右開き



マンガ編
（マンガでよく分かる
愛荘町グランドデザイン）

編集・発行

愛荘町　グランドデザイン推進室

URL https://www.town.aisho.shiga.jp

協力　滋賀県立大学環境建築デザイン学科（村上修一研究室）

愛荘町まちのグランドデザイン２０４０
（計画編）

目次

はじめに …… 1
愛荘町を取り巻く動向と課題…… 4
まちの将来ビジョン …… 7
目指すべき将来都市構造 …… 8
まちづくりの基本方針 …… 9
ビジョンの実現に向けて …… 10
１．多様な人々が訪れ交流し活力を生むまち…… 12
２．地域交通が充実した誰もが快適に過ごせるまち…… 16
３．農・自然と共存した美しいまち…… 20
４．年を重ねても健康で安心して暮らせるまち…… 24

注：計画編に示す挿絵等は、概ね２０年後（２０４０年）のまちの姿をイメージして描いたものであり、実際の位置や規模、整備内容と一致するものではありません。

背景と目的

愛荘町は、琵琶湖の東部（湖東地域）に位置し、鈴鹿山系からの伏流水に恵まれた水と緑の豊かな自然と、多様な歴史文化遺産や伝統が息づく町として発展を遂げてきました。

また、交通の要衝としても発展してきた本町は、第２次産業を中心とした優良企業の進出等を契機とし、１９９０年代以降、急激な市街化による人口増加を続けてきました。その一方で、有機的な都市の形成やまちづくりの核となる中心エリアの整備等に課題を抱えたまま都市化が進みました。

今後、良好な住環境や持続可能なコミュニティの形成を進めていくにあたっては、地域に暮らし活動する人々が、様々な機会を通じて、地域と関わり、充実したライフスタイルが実現できるまちとなることが必要です。

愛荘町まちのグランドデザイン２０４０（以下、グランドデザイン）は、これからの私たちの暮らしや環境の変化を見据え、長期的視点に立ったまちの将来ビジョンを示すことで、本町が持つ魅力や可能性、価値を再認識し、愛着と誇りを育み、まちづくりに参加する機運を高めることを目的とします。

グランドデザインの役割

将来ビジョン等を具体的に示す

愛荘町に関わるすべての人々にとっての共通の認識として、長期を見据えたまちの将来ビジョン等を分かりやすく具体的に示します。

まちづくりに対する住民の理解を深める

地域で活躍する多様な主体に、まちの将来ビジョン等を共有することで、まちづくりへの理解を深め、町政に対する積極的な参画・協働を促します。

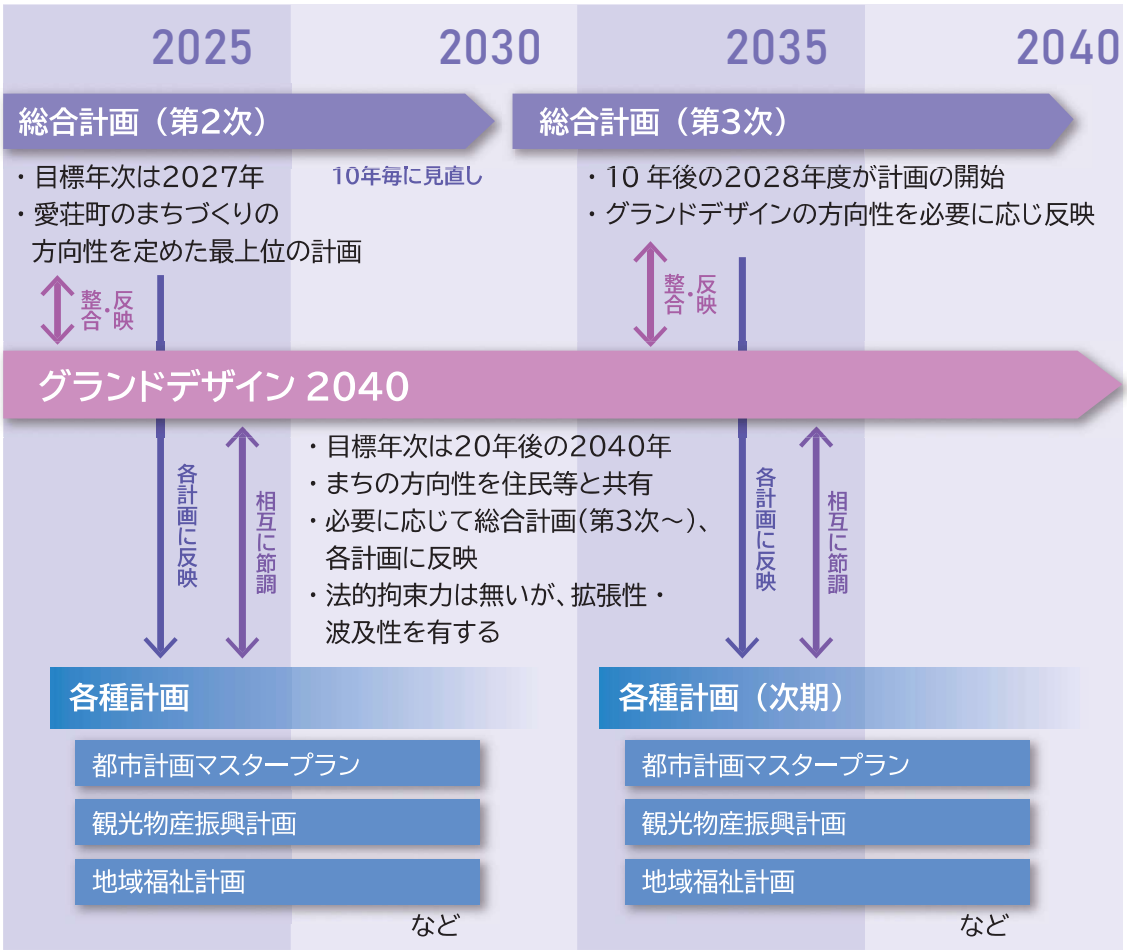
一体的なまちづくりを推進する

都市計画をはじめ交通、観光、産業、福祉等の各分野が本グランドデザインを軸に連携・整合を図ることで、一体的なまちづくりを具体的かつ積極的に推進します。

グランドデザインの位置づけ

グランドデザインは、まちの最上位の計画である総合計画*と整合を図りながら、概ね２０年後（２０４０年）を見据えた、本町のまちづくりを進めるにあたっての根本となる考え方を示すものです。

グランドデザインそのものは、法的な拘束力を有するものではありませんが、本デザインが示すまちの将来ビジョンや方向性等を、総合計画や各種計画等と相互に反映・整合していくことで、様々な分野が一体となり、まちづくりに対する共通の認識として機能していくことを図ります。



＊印がついている語句について用語解説（30～31ページ）に説明しています。

グランドデザインの実現・推進の方策

概ね２０年後を見据えたグランドデザインを実現していくためには、行政だけではなく、住民が自らの地域や町に関心を持つことで生まれる、地域が持つ力や発想をまちづくりへと積極的に活かしていくことが必要です。

そのため、地域と行政が本グランドデザインの理念等を共通の目標に掲げ、両者をつなぐ役割を担う中間支援組織の構築・協力のもと、相互の連携・交流による協働のまちづくりを実践していきます。



地域の役割

地域住民は、地域の課題やまちづくり活動に関心、理解を深めるとともに、まちづくりに携わる多様な担い手として、地域が主体のまちづくり活動を推進します。

様々な分野で活躍するまちづくり団体や事業者等は、相互の理解、連携、交流を図ることで、地域課題の解決に向け、積極的なまちづくり活動を推進します。

行政の役割

行政は、地域との協働のまちづくりが円滑に進むよう、必要な情報の提供やまちづくり活動等の支援、参画機会の充実を図るとともに、責任ある行政運営に取り組みます。

中間支援組織の役割

地域と行政をつなぎ、連携・交流・調整等の役割を担う中間支援組織は、資源（人、モノ、カネ、情報）の橋渡しや団体間のネットワークづくり、各種まちづくり活動のマネジメント等に取り組み、協働のまちづくりを下支えします。

まちの魅力 と 課題

まちの魅力

〇湖東三山のひとつである金剛輪寺、渡来系氏族・依智秦氏のゆかりの史跡など**貴重な歴史文化遺産**、中山道の宿場をはじめ近世の**東西交通の動脈**などが残されています。また、鈴鹿山系からの清水に恵まれ、その流域に広がる田園風景など**豊かな自然**を背景として、近江上布・秦荘紬などの織物技術、びん細工手まり・太鼓・琴などの工芸、酒づくりなど、**伝統技術**が引き継がれてきました。

〇第２次産業を中心とした優良企業の進出等を契機とし、１９９０年以降、**子育て世代を中心に人口は増加**しています。この傾向は２０３５年頃まで続くと予測されています。

〇国道８号、国道３０７号、近江鉄道線が南北に縦断していることや名神高速道路湖東三山スマートインターチェンジの開通（平成２５年）により、**町へのアクセス**は高まっています。

●核となる**中心市街地の空洞化**＊や各資源の**分散立地**により、本町の有する豊かな資源や広域交通の利点といった強みを十分に活かしきれていないのが現状です。

●中山道の宿場は、経営者の高齢化や後継者不足などで廃業する店舗が増加し、**商店街の魅力の低下**や**空き家・空き店舗が増加**しています。消費人口の減少や購買手段の多様化、車社会の進展などの社会構造の変化が地域経済に大きく影響を与えることが、今後も懸念されます。

●観光について、まちの玄関口となる鉄道駅やスマートＩＣ等から町内へと**来訪者を誘導する仕組み**がうまく構築されておらず、賑わいは一時的、局所的であるのが現状です。

まちの課題

社会の潮流

持続可能なまちづくりを進めるにあたっては、私たちを取り巻く社会経済情勢の変化や多様化する暮らしのニーズを的確に把握し、時代の変化に速やかに対応していくことが求められます。

働き方・働き手の多様化

人口減少・少子高齢等を背景に、**働き方・働き手の多様化**が進展しています。

これまで定時の出勤が前提であった働き方は、「働き方改革」やワークライフバランス*の重視、各企業におけるオープンイノベーション*の推進、さらには新型コロナウイルス感染症対策として、テレワーク*やフレックスタイム*等の導入が急速に普及しました。働き手の観点からは、リモートワークや副業の自由化など、場所や時間、組織といった制約に捉われることのない働き方が支持され、デュアルライフ*やワーケーション*、ブレジャー*等の新たな形態のワークスタイルが増えています。

これら働き方や働き手の多様化、ひいてはライフスタイルの多様化は、まちで働く層、生活する層、訪れる層に新たな変化を加えます。「働く場」として捉えられてきた**オフィス街に商業や憩いの空間**が求められ、あるいは「生活・余暇の場」と捉えられてきた住宅地や観光地に**コワーキングスペース*やサテライトオフィス***などのビジネス機能が導入されるなど、**まちや空間・施設が果たすべき機能、特徴も大きく変わりつつあります。**

ソーシャルキャピタル*の低下

わが国において今後、人口減少に続き 2023 年をピークに世帯数が減少し、その構成も単身世帯、高齢者世帯が多くを占めることが予測されています。このような世帯数や世帯構成の変化は、世代間の交流や人と人のつながりの力を低下させ、社会全体の活力の低下につながるおそれがあります。

また、わが国の多くの都市で社会的つながりを担ってきた自治会等の地縁組織においても加入率の低下傾向が見られており、孤独の解消、ソーシャルキャピタルの強化のためには、新たなつながりが求められています。

すべての世代が生きがいを持ち、持続可能な社会を構築するためには、少子高齢化や単身世帯の増加といった、ともすれば社会のマイナス要因となりかねない傾向を、**健康寿命*の延伸、社会的な交流の創出**といったプラス方向に転換し、**人々の新たなつながり**を育む努力が求められます。

愛荘町を取り巻く動向と課題

「居心地」と「つながり」

まちは、様々な背景や意識を持つ人々が集まる場です。まちに集う多様な人材が均質化せず、「個」として社会的に満たされるためには、互いの違いを尊重し、認め合う寛容性を持ち、**自由にくつろげる居心地の良い場**が必要とされています。

多様なライフスタイルを包摂し、地域固有の魅力や価値を発掘・最大化していくため、プライベート空間(自宅)／パブリック空間(職場)に次ぐ、**創造的な交流が行われる空間(サードプレイス)の創出**など、まちが提供する暮らし・生活の豊かさを発展させ、**ひとに寄り添うまちの満足度(Well-being)を高めていく**必要があります。

「新技術」と「新制度」

近年、産業や生活の様々な場面において、ＡＩ*やＩｏＴ*等の新技術が浸透し、**デジタル技術による社会経済の変革(ＤＸ*)**が進められており、さらに今後予想される**次世代の分散型インターネット(Ｗｅｂ３.０*)社会**では、地域や個人による主体的な活動がより活発になると考えられます。

また、2050 年までにカーボンニュートラル*を目指すため、温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギーなど**グリーンエネルギー*への転換による産業構造や社会経済の変革(ＧＸ*)**を推進し、経済と環境が好循環する脱炭素社会の実現へとつなげていくことが期待されています。

活発化、多様化する都市活動を受け止めるため、これら**ＤＸ、ＧＸの視点**を持ち、様々な新技術やそれを支える新制度等を積極的に活用していくことで、人とモノ・情報が有機的につながり、人間中心の豊かな生活の実現に寄与する、**Society5.0*時代のまちづくり**が求められています。

安全・安心な暮らし志向の高まり

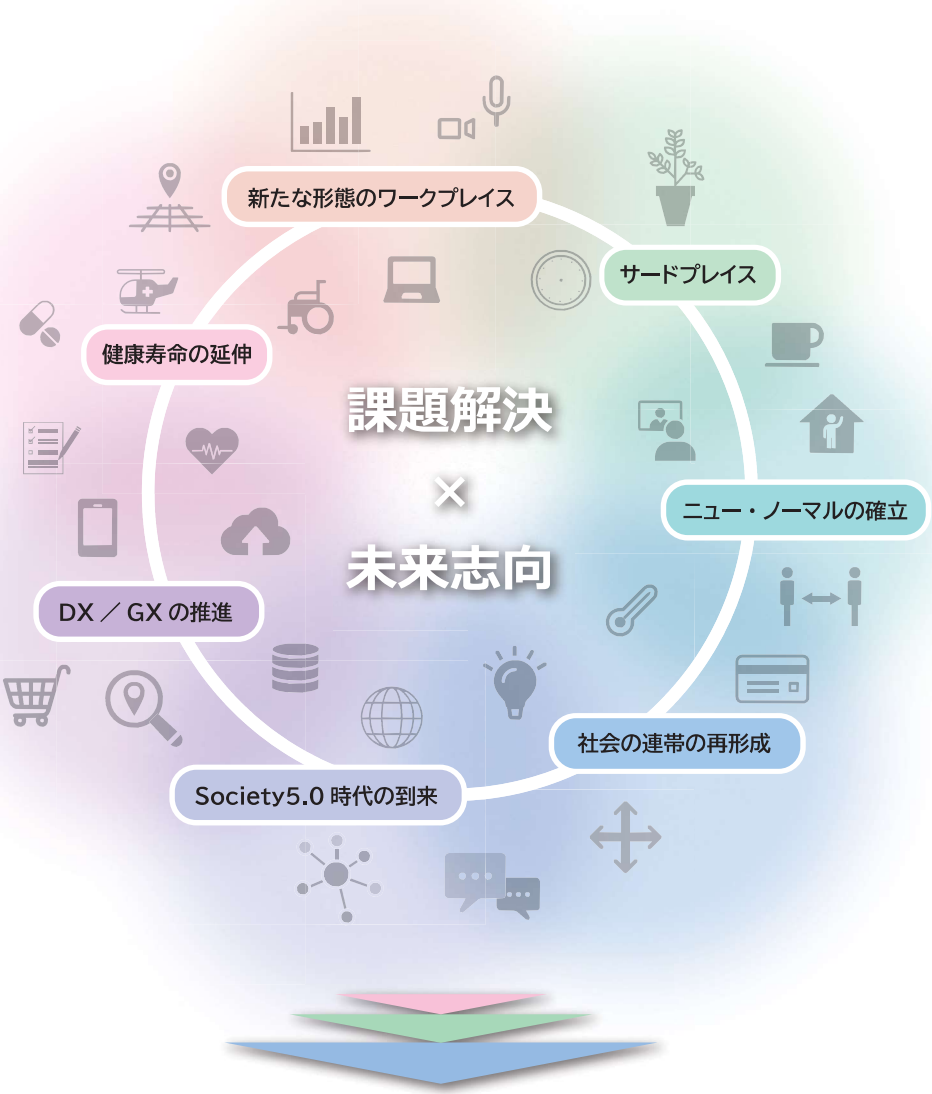
近年、世界規模で異常気象や自然災害が頻発しています。わが国においても、未だ記憶に新しい東日本大震災(2011 年 3 月)をはじめ、各地の豪雨災害など、各種の災害が発生しやすい自然的特性から毎年のように自然災害が発生しています。

また、2020 年の年明けより世界的に感染が広がった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、第二次世界大戦以降で最も困難な危機ともいわれる大規模な感染症とされ、世界各国が総力を挙げてその終息と、再度の感染拡大を防止するためのニュー・ノーマルとも言われる新たな日常の確立を目指しています。

これら世界規模の危機的課題に打ち勝ち、適応していくためには、**災害や感染症に強い社会基盤の構築**とともに、ウィズコロナ・アフターコロナ時代における人や地域のつながりを今一度取り戻し、すべての住民が安全・安心に暮らせる**社会の「連帯」を再形成**することが求められます。

まちの将来ビジョン

これまで培ってきた愛荘町ならではの魅力や課題を踏まえつつ、目指すまちの姿を再認識・再構築するとともに、激動する社会の潮流に対応する新しい視点を投入することで、２０年後を見据えた愛荘町に新たな価値の創造を図るため、まちの将来ビジョンを**「つながりを生む田園空間都市」**と掲げます。



つながりを生む田園空間都市※

持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年（平成27年）9月国連サミットにおいて採択された、「誰一人取り残さない社会」を基本理念として、環境・社会・経済の３つの側面のバランスがとれた社会の実現を目指す国際目標（2030年目標）。

※鈴鹿山脈からの豊かな清水と自然に恵まれ、古くから人々が集い栄えた歴史を受け継ぎながら、人々の住まいや生業が美しい農業地域とともに共存する、緑豊かなまちの姿をイメージした言葉です。

将来ビジョンを実現するための暮らしや経済・産業等の基盤となる、目指すべき将来都市構造およびまちづくりの基本方針を以下とします。

目指すべき将来都市構造

従前の「拡散型のまちづくり」からの脱却を図り、地域ごとに存在し核となる多様な拠点（駅周辺、旧町役場周辺、農山村集落など）に居住や生活サービス等の機能の誘導を図ることが求められます。

そのため、中心的な拠点から地域の拠点をつなぐ交通ネットワークの維持・形成や、居住・交流等に必要な各種機能に加えて地域の実情に応じた多様な都市機能を集積するなど、**「拠点連携型のまちづくり」**を推進していきます。



まちづくりの基本方針

1 多様な人々が訪れ交流し活力を生むまち

愛知川駅および愛知川庁舎周辺の中心市街地は、商業や居住、公共サービス等の多様な都市機能が集積し、長い歴史の中で多様な文化と伝統を育んできた「まちの顔」とも言うべき地域ですが、近年は人口減少や若者の流出、空き家・空き店舗等の増加などが進行しています。

そのため、商業機能等の都市機能の無秩序な拡散に歯止めをかける対策とあわせて、都市機能がコンパクトに集積し、魅力があり賑わいあふれるまちづくりに力点を置いた活性化に取り組みます。さらに、多様な世代の「暮らし・働き・交流」を促進し、郊外等とも連携した地域経済をけん引する拠点としての機能が期待されるなど、その変化に応じたまちづくりを検討、推進します。

2 地域交通が充実した誰もが快適に過ごせるまち

地域交通網は、地域活力の向上や住民の生活利便性の向上を図るうえで重要な役割を担っており、まちの発展に欠かせない重要な都市基盤です。

そのため、安全で快適な交通体系の構築に向けて、将来道路網を構成する各幹線道路の役割を明確にし、その役割に応じた段階的な道路体系を確立すべく、まちづくりと連携した交通結節機能の充実や歩行者や自転車に配慮した道路空間の創出など、安全性・快適性を確保し地域の実情に応じた道路空間の実現に取り組みます。

3 農・自然と共存した美しいまち

農地は、生活に必要な米や野菜などの生産の場であるとともに、雨水の一時的な貯蓄、洪水や土砂崩れの防止、多様な生きものを育む場や美しい農村風景など、様々な「めぐみ」を私たちにもたらしています。農村における高齢化・人口減少が進行し、集落の弱体化および農村協働力*の脆弱化が懸念されるなか、これら農地・農村が有する多面的機能*は有力な地域資源として注目されています。

そのため、景観に優れ、心地よさに満ちた、豊かで住みよい農村として、地域の特性に応じた農業の健全な発展を図るとともに、福祉の向上や地域振興の観点なども踏まえた個性と魅力ある地域づくりに取り組みます。

4 年を重ねても健康で安心して暮らせるまち

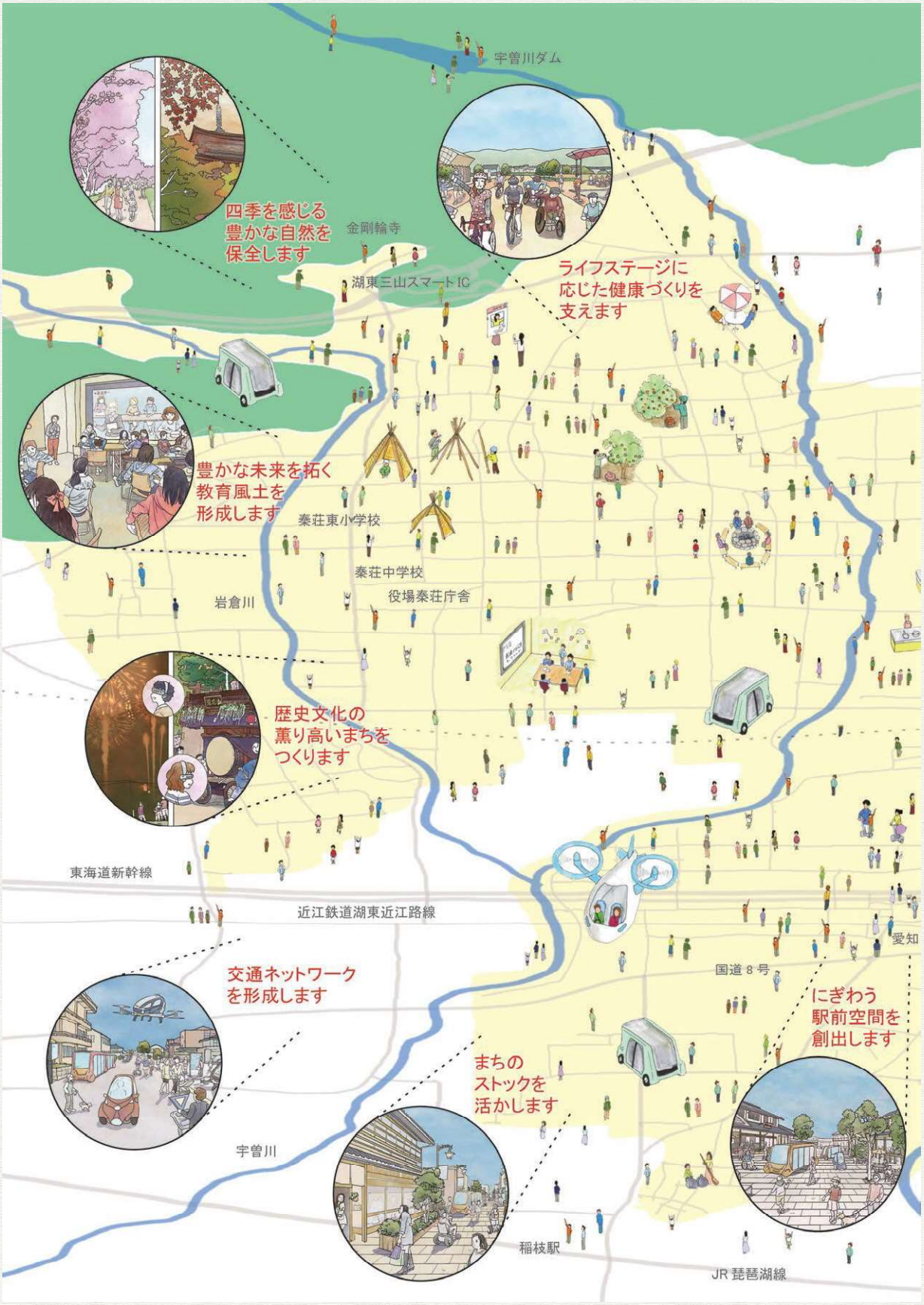
急速な人口減少・少子高齢化が進行する中にあっては、地域に関わる一人ひとりが担い手として参画し、様々な地域資源を活用しながら、その特性に応じた地域づくりにつなげていくことが重要です。

そのため、誰もが、その個性と多様性が尊重され、それぞれの希望に応じた能力が発揮される居場所づくりと、その役割を持って互いにつながり、生涯を通じて健康でアクティブに活躍することができる活気あふれ温もりのある地域コミュニティの実現に取り組みます。

ビジョンの実現に向けて

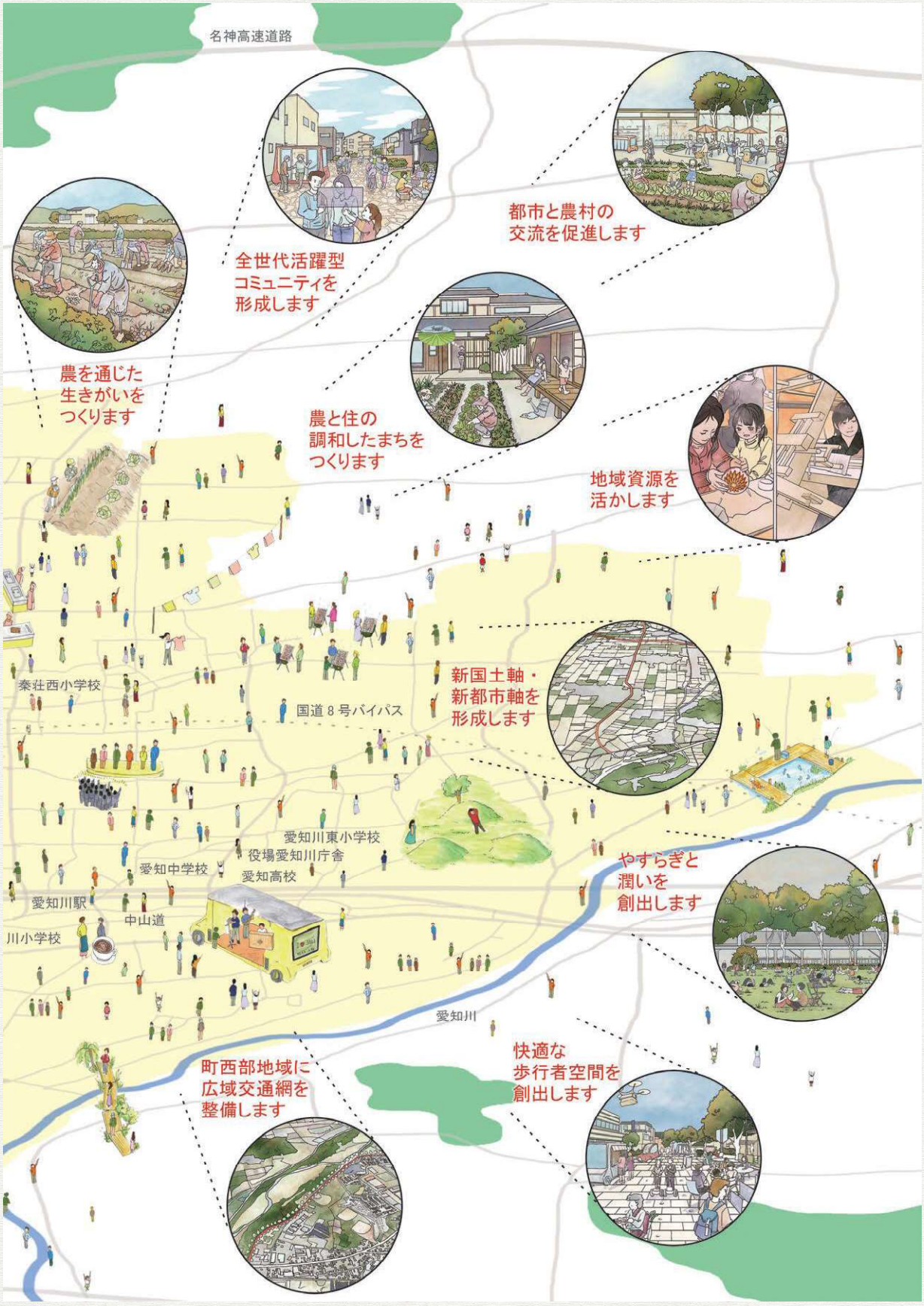
将来ビジョンの実現に向けた具体の取組について、基本方針ごとに持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）

【将来ビジョンが実現した



に掲げられたゴールとの関連性を踏まえ、それぞれの取組を推進していきます。

まちのイメージ】



1．多様な人々が訪れ交流し活力を生むまち

にぎわう駅前空間の創出

【目指す将来の姿】

愛知川駅周辺の中心市街地を、居心地が良く、歩いて楽しい空間へと転換させるため、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出など、**誰もが訪れやすい「まちの玄関口」としてふさわしい駅前の再生**を実現します。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- エリアビジョンの検討
- パークアンドライド*の推進
- 既存ストック（空き家・空き地等）の活用
- 民間投資の誘導（ノウハウや技術の活用）　等
- シェアサイクル*の貸出し
- 新たなモビリティサービスの検討

＜まちづくりイメージ＞



地域資源を活かす

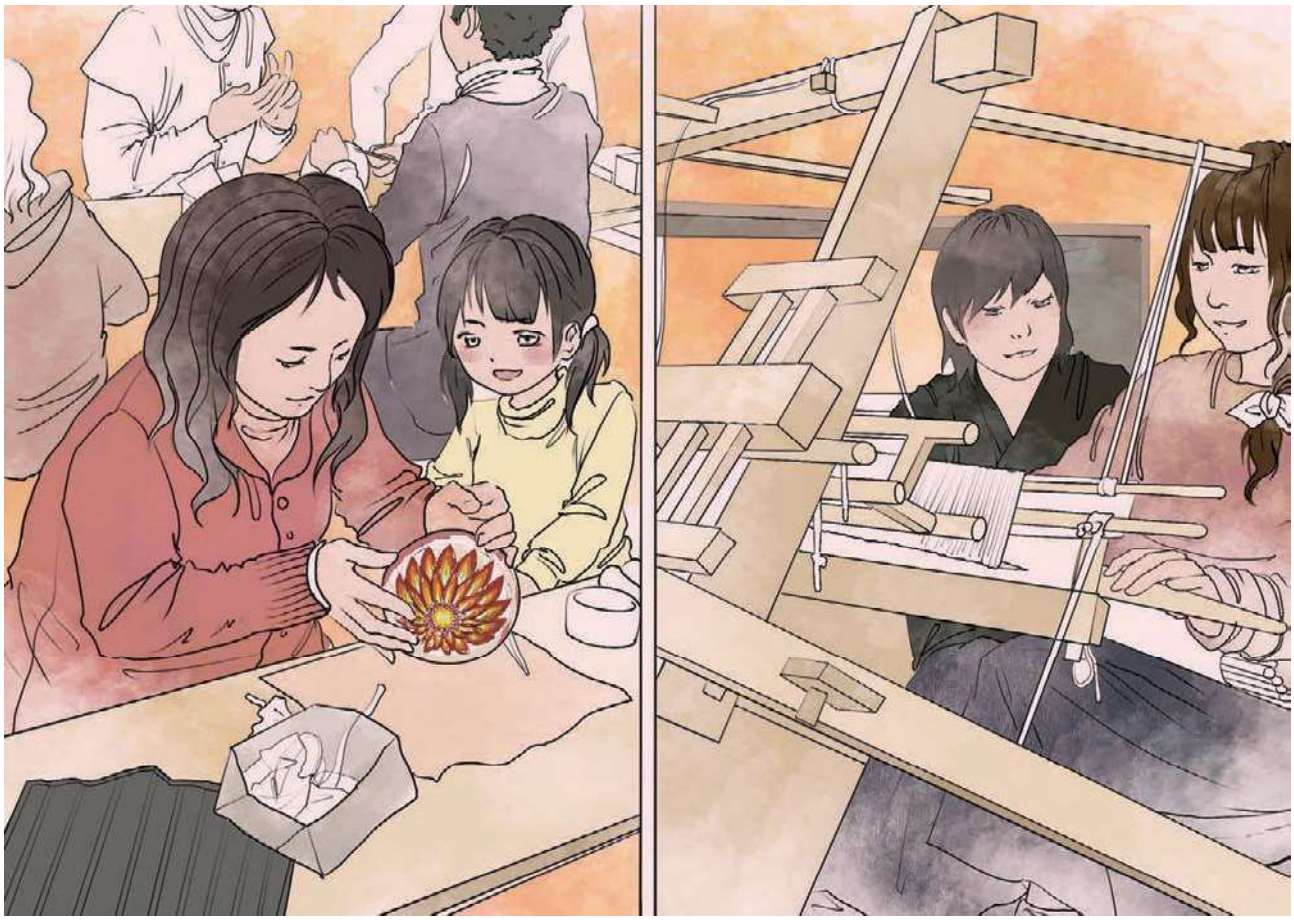
【目指す将来の姿】

地域の魅力を高め、観光や文化交流、イベントの開催などにより、域外からの来訪者や宿泊客の増加を図るなど、**地域と多様に関わる関係人口の創出・拡大**に取り組みます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 地域資源の掘り起こしと磨き上げ
- 地域資源を活用した体験ツアー（着地型観光*）の実施
- デジタルコンテンツと連携した情報発信
- 地域ブランドの開発、発信
- 各資源、各拠点施設のネットワーク化　等

＜まちづくりイメージ＞



1．多様な人々が訪れ交流し活力を生むまち

まちのストックを活かす

【目指す将来の姿】

空き店舗の解消、様々な用途としての空き家の再生、既存建物のリノベーションなど、これまで投資されてきた**まちの既存ストックの機能を活かし、歩いて楽しいまちなかの賑わいづくり**を進めます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 既存ストック（空き家・空き店舗）の掘り起こし
- 既存ストック（空き家・空き店舗）の有効活用（交流拠点など）
- コワーキングスペースやサテライトオフィスの誘致
- 起業意欲のある外部人材の誘致
- スタートアップ*への支援（起業・創業支援）　等

＜まちづくりイメージ＞



やすらぎと潤いの創出

【目指す将来の姿】

まちなかの既存公共空間を緑地公園化することで、新たな地域のシンボルを生み出すとともに、快適で憩うことができ、多様な人が訪れ、出会い・交流の場となる**「みどり」をコアとしたまちの活性化**に取り組みます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 空間デザインの検討
- 「水と緑のネットワーク」を活かした歩行者・自転車空間の整備
- みどりを活用した新たなコミュニティの形成
- 新たな子育て広場の創出
- 健康づくりの推進
- 周辺への店舗誘導　等

＜まちづくりイメージ＞



2．地域交通が充実した誰もが快適に過ごせるまち

快適な歩行者空間の創出

【目指す将来の姿】

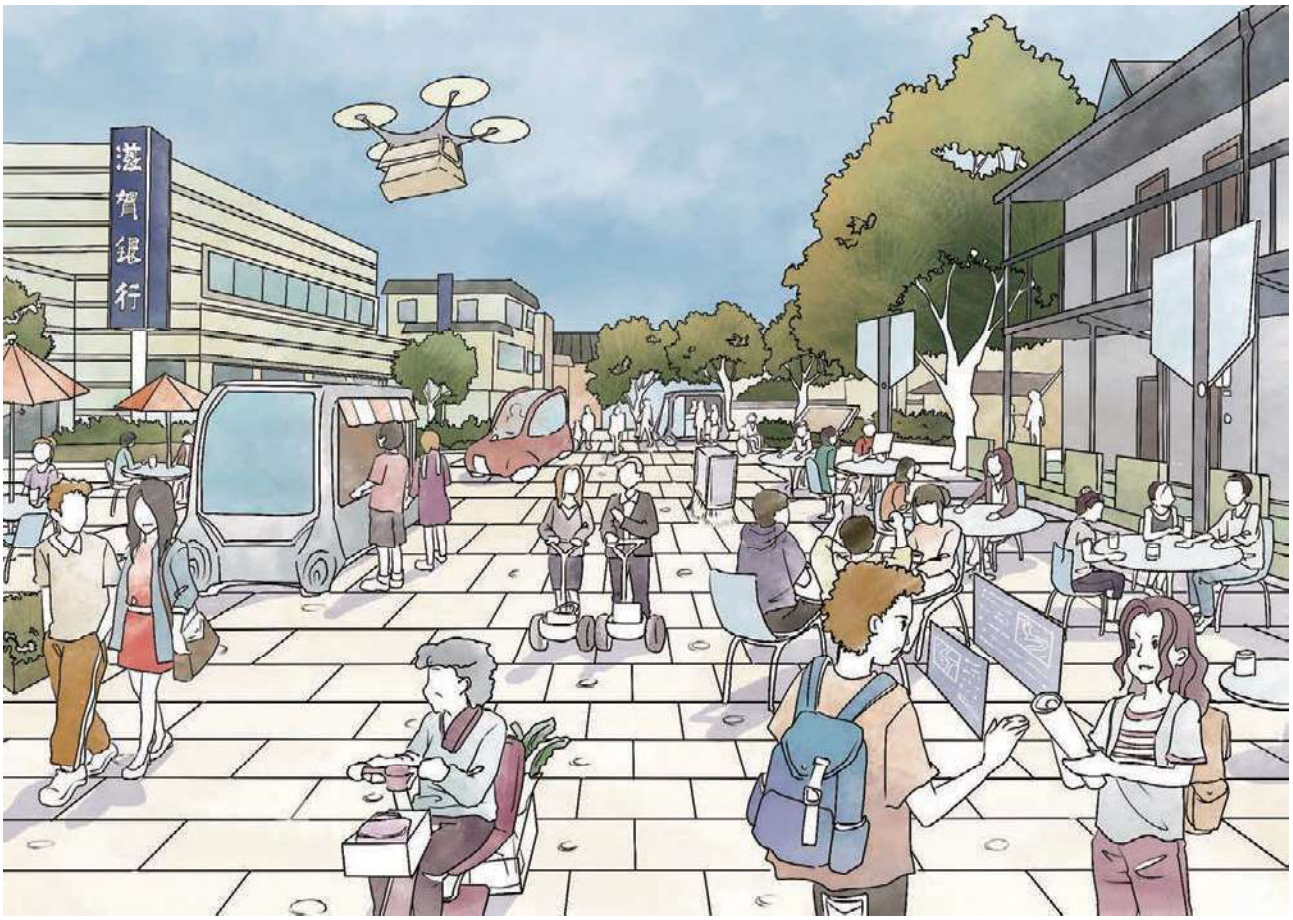
国道８号、歴史街道のおもむきを残す中山道、まちの玄関口である近江鉄道愛知川駅を結ぶ主要道路を**安心・安全・快適に歩行できる空間整備**を行うことで、点在する魅力的な観光拠点を歩いて楽しめる空間を創出し、商店街の活性化や観光誘客に取り組みます。

また、**誰もが安心・安全に利用できる人にもやさしい歩行者空間を整備**し、健康増進の取組を推進します。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 空間の質を高めるデザインの創出
- 安全で快適な歩行者・自転車ネットワークの形成
- 町内周遊やレクリエーション空間としての活用
  （マルシェ・イベントの実施、ベンチの設置など） 等
- まちなかウォーカブル*の推進
- 安心・安全な通学路整備
- 健康まちづくりの推進

＜まちづくりイメージ＞



町西部地域の広域交通網の整備

【目指す将来の姿】

国道８号の交通渋滞の解消やまちの中心エリアへのアクセスの向上等、広域交通ネットワークの強化に向けて、**主要幹線道路の整備**を推進することで、物流の利便性向上や企業立地等の地域振興策等、町整備地域の魅力向上および地域経済の活性化につなげます。

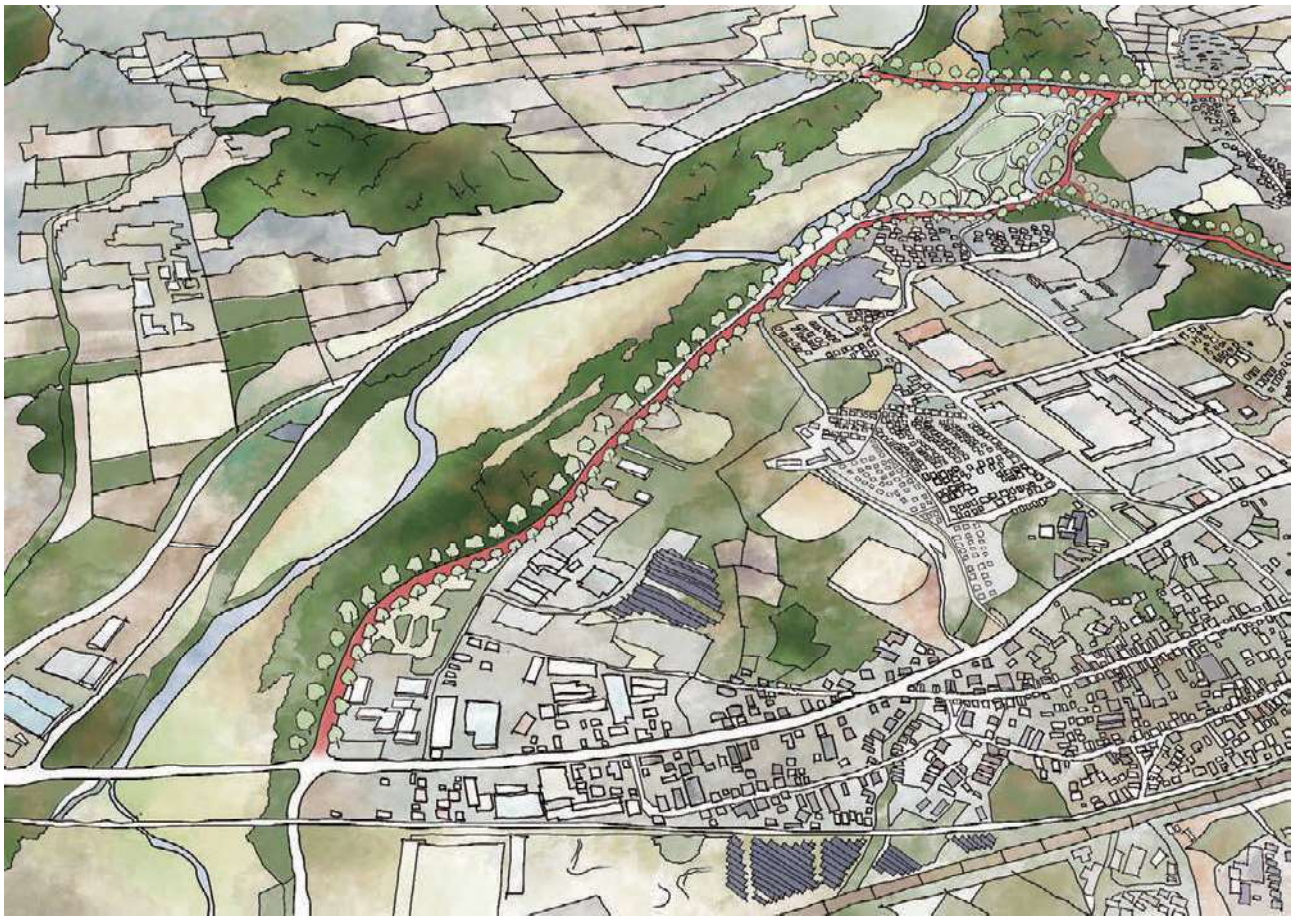
また、浸水被害リスクに対する備えとして、河川改修等を推進するとともに、土地が持つ保水機能を高めるための農地の活用や樹林地の保全など、**総合的な治水対策**を図ります。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- エリアビジョンの検討（早期整備に向けた県との綿密な連携）
- 県道湖東彦根線（愛知川右岸道路）の整備の推進
- 農業生産基盤の整備（大型機械やスマート農業*への対応）
- 不飲川の整備の推進（治水安全の確保）
- 県道神郷彦根線の整備の推進
- まちづくりと連携した交通結節機能の検討

等

＜まちづくりイメージ＞



2．地域交通が充実した誰もが快適に過ごせるまち

新国土軸・新都市軸の形成

【目指す将来の姿】

国道８号の慢性的な交通渋滞により日常生活や産業振興、観光振興などの妨げになっている現状に鑑み、産業振興の促進、渋滞の緩和、交通安全の確保、観光振興の促進の４つの観点から**国道８号バイパス（新国土軸）の早期事業化**を進めるとともに、**結節点となる名神高速道路から国道８号に直接至る東西ルート（新都市軸）**の検討をはじめ、新しい人の流れの創出や物流の利便性向上による地域経済の活性化等、地域住民の生活空間の確保による安心・安全な住みよいまちづくりに取り組みます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 道路整備プログラムの検討（早期整備に向けた国・県との綿密な連携）
- 町東・西部地域への人の流れの創出（東西方向のネットワークの強化）
- まちづくりと連携した交通結節機能の検討
- 沿道周辺の賑わいの創出（企業誘致等）　等

＜まちづくりイメージ＞



交通ネットワークの形成

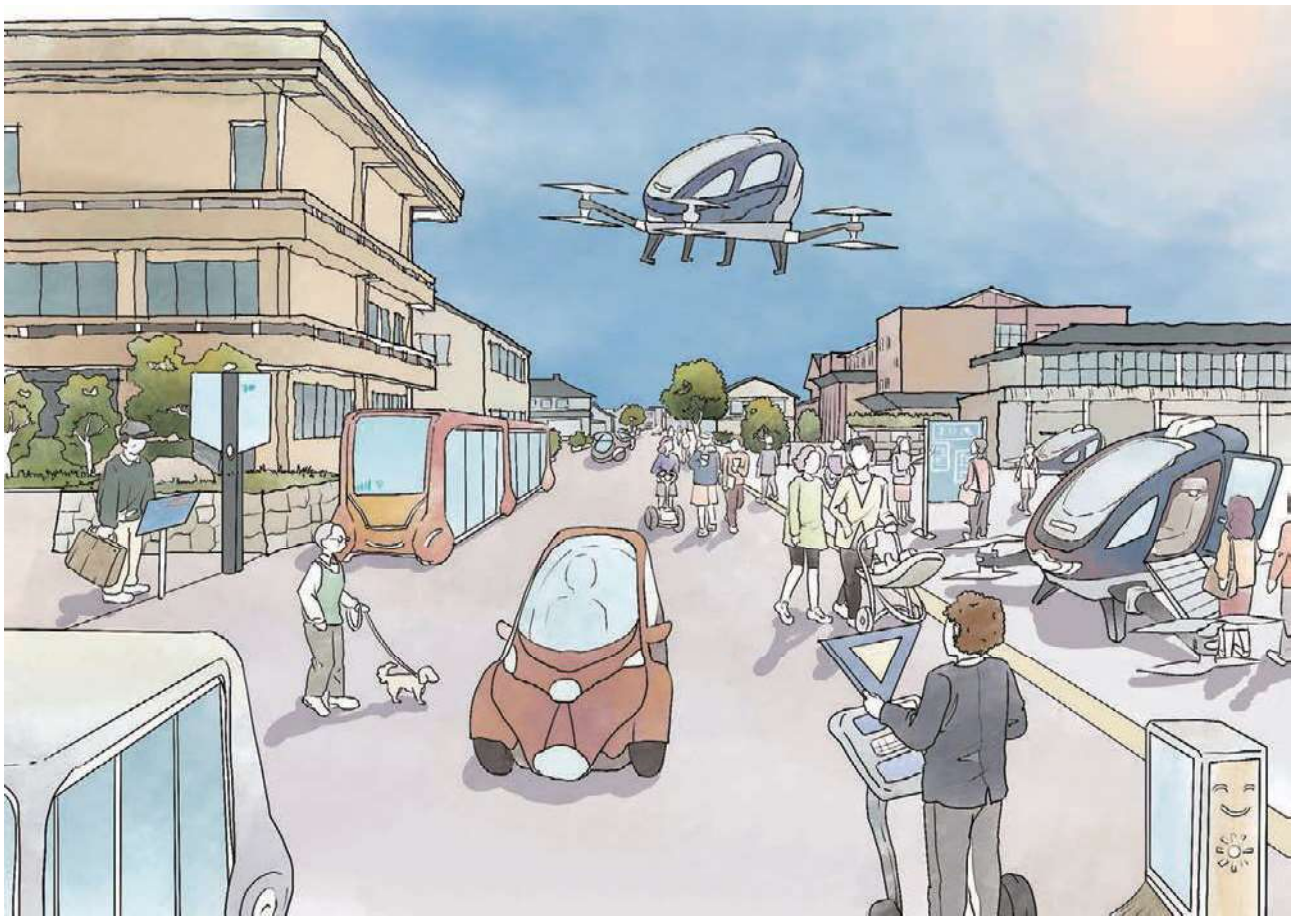
【目指す将来の姿】

地域公共交通は、駅や病院、商業施設、観光拠点などを結び、誰もが気軽で安全に移動できるようにすることで、都市の機能を高め、交流人口の増加によるまちの賑わいや魅力の向上につながります。地域公共交通を住民の移動を支える重要な社会資本と捉え、**次代を見据えた交通ネットワークの形成**に取り組みます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 公共交通網の再編検討
- 新たなモビリティサービスの検討
- シェアリングエコノミー*の推進（民間車両等の活用）
- 料金のキャッシュレス化やアプリを活用した予約配車システムの開発　等
- 地域コミュニティによる互助輸送の推進・支援
- まちの中心エリアにおける自転車の活用
- ＭａａＳ*の導入検討

＜まちづくりイメージ＞



3．農・自然と共存した美しいまち

農と住の調和したまちづくり

【目指す将来の姿】

市街地に近接した農地は、住民の生活と隣り合った農業生産の場として、また住民の生活環境を保全する民有の緑地として、保全すべき貴重な空間です。大切な財産である多面的機能が適切に発揮されるよう**地域活動や営農の継続等を支援**するとともに、**農地の保全により無秩序な市街化の防止**を図ります。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 農地の貸借制度を活用した担い手の確保
- 地場農産物の普及・地産地消
- 農業を継続する仕組みづくり（雇用就農・援農の促進、スマート農業の導入）
- 高品質な農産物の生産、生産の効率化
- 地域が一体となった農地・農村の保全（治水対策）　等

＜まちづくりイメージ＞



農を通じた生きがいづくり

【目指す将来の姿】

近年、**多様性を受容する社会**を目指し、農業分野と幅広い福祉の連携により、雇用・就労を促進する農福連携の取組が盛んになっています。**農福連携＊の推進**により、障がいのある人等の雇用・就労を通じた活躍の場の拡大、農産物の付加価値の向上、自立支援にもつながる**「共生社会＊づくり」**を進めます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 農業労働力の確保
- 農地の維持・拡大（荒廃農地の解消）
- 障がい者等の雇用の場の確保
- 高齢者等の生きがいづくりの推進
- 一般就労のための支援　等

＜まちづくりイメージ＞



3．農・自然と共存した美しいまち

都市と農村の交流

【目指す将来の姿】

農村の人口減少、高齢化が進む一方で、自己実現の場や新しいビジネスモデル、イノベーションが生まれる課題先進地域として、農村に注目する若者が増えています。こうした「田園回帰」の意識が高まっている若い世代を中心とした多様な人材を迎え、**地域資源を活用した農村地域の活性化**に取り組みます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 移住・定住施策の推進
- 空き家対策の強化
- 市民農園*の開設
- 新規就農者（半農半X*）のチャレンジを支援
- 里山等を活用したレクリエーション空間の創出
- 農業資源等を活用したファームステイ（農泊*）の推進　等

＜まちづくりイメージ＞



四季を感じる豊かな自然

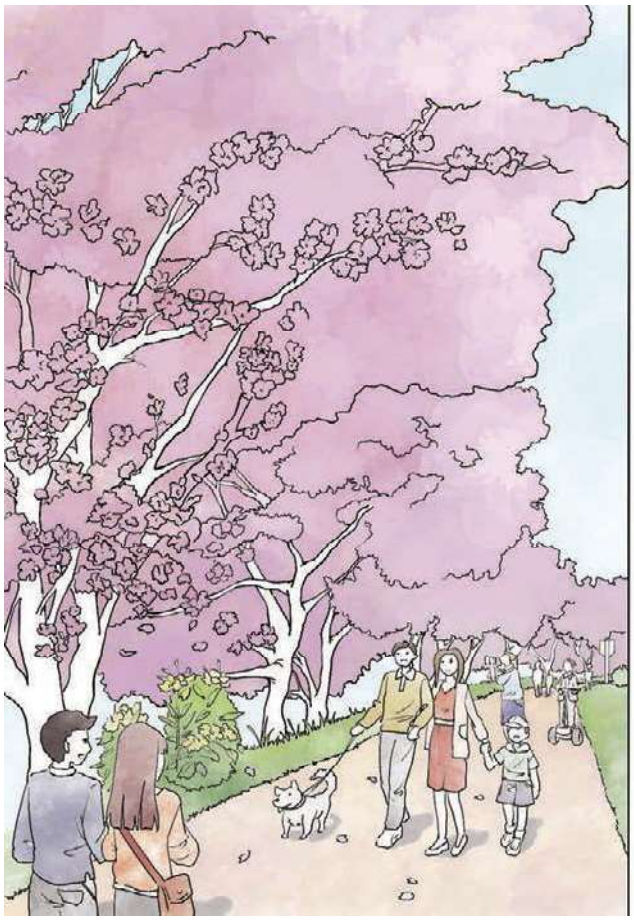
【目指す将来の姿】

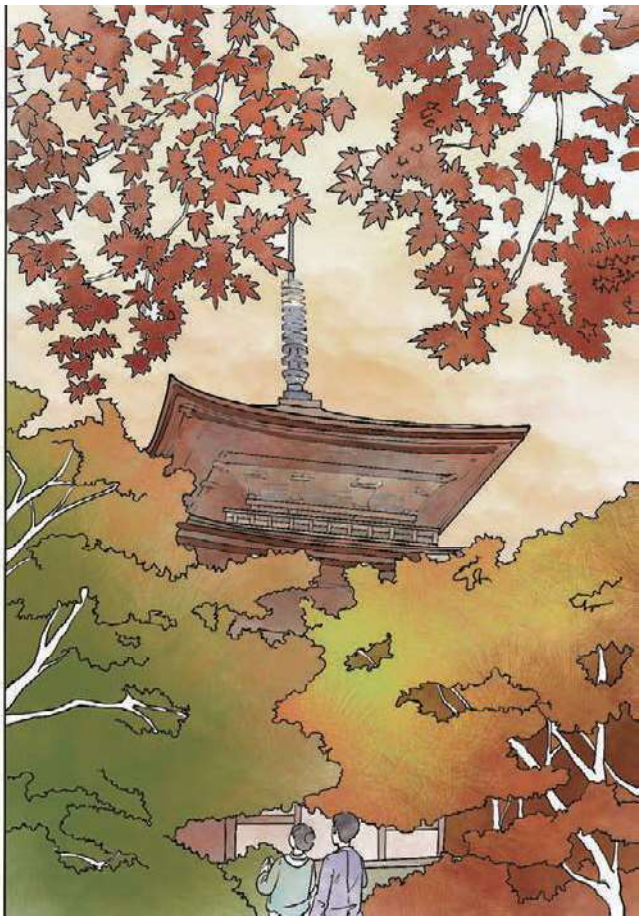
鈴鹿山系からの豊かな清水と自然に恵まれる本町は、古くから水との関わりが深く、農業をはじめ様々な産業が発展してきました。おだやかな風が吹き青い空が広がる春、太陽の光を受けて新緑のみどりがまぶしい夏、田園風景が小麦色に染まる秋、鈴鹿の尾根が白い雪をまとう冬と、この**美しい彩り豊かな自然の保全**に取り組みます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 自然環境の保全・後世への継承
- 「水と緑のネットワーク」を形成する河川・緑地の保全および整備
- 自然に親しむ場やレクリエーションの場としての活用
- 歴史文化遺産および観光交流施設等と連携したまちづくりの推進　等

＜まちづくりイメージ＞





4．年を重ねても健康で安心して暮らせるまち

全世代活躍型コミュニティの形成

【目指す将来の姿】

生涯にわたってコミュニティの維持・継続を推進していくため、多様な人を集める「機能」、人と人をつなげる「仕掛け」、「場」の整備を促進し、**コミュニティに関わるあらゆる人が自らの居場所（役割）を見つけ、交流できる取組**を進めます。

また、地域の災害リスクに関する情報を共有し、自助・共助・公助の考えのもと、**地域と行政が連携し、一体となって地域の防災・減災活動**に取り組みます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 地域課題の把握･共有
- 自治会連携を見据えた共生ビジョンの検討
- 利便性の高いエリアへの居住誘導
- 既存建物や空き家・空き地等を活用した居場所づくり
- 地域コミュニティによる互助輸送の推進・支援
- 避難所等の適正確保および緊急輸送道路の整備・維持管理
- 自治会ＤＸ*（デジタルトランスフォーメーション）の推進による新たなコミュニティ活動の推進　等

＜まちづくりイメージ＞



豊かな未来を拓く教育風土の形成

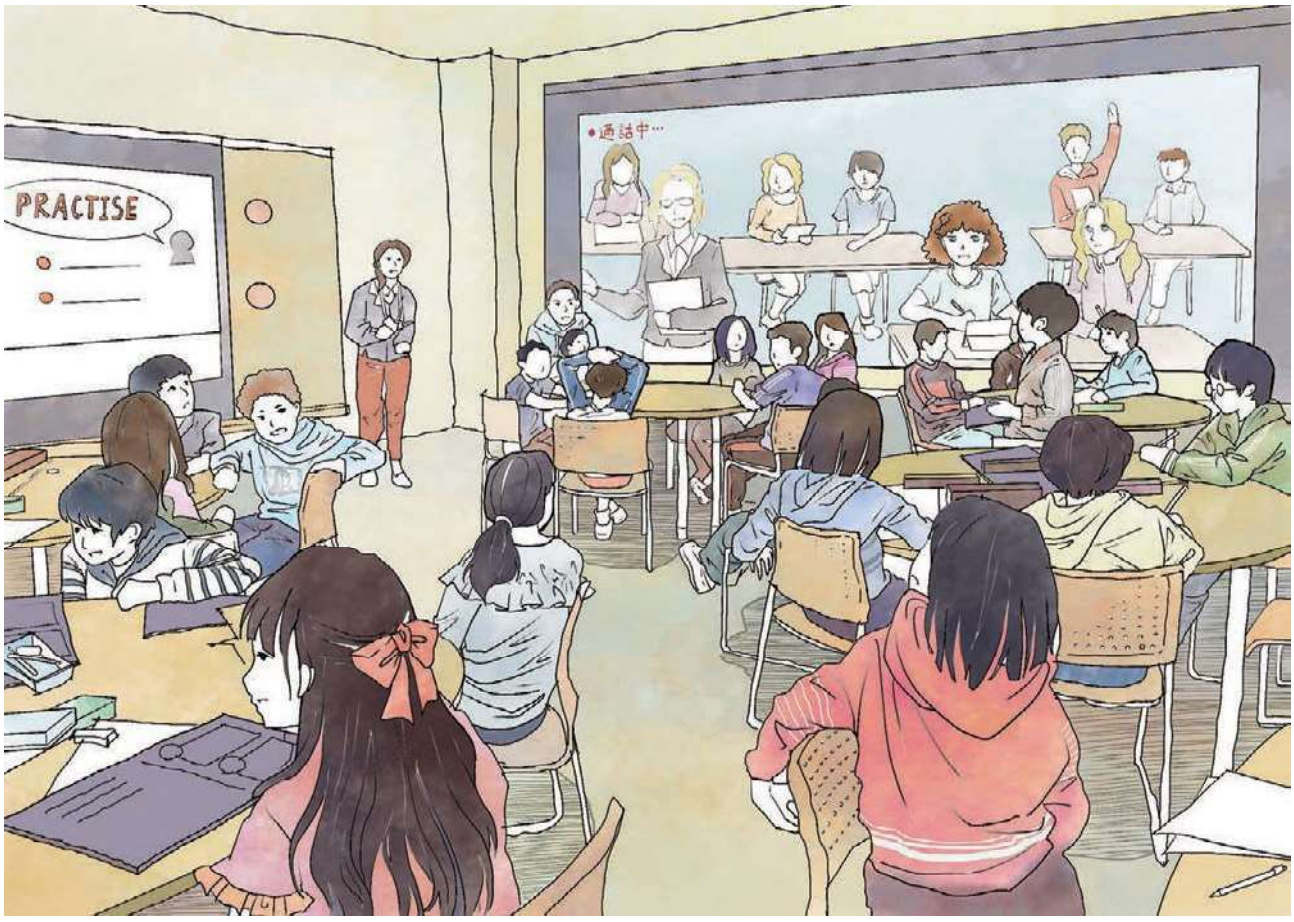
【目指す将来の姿】

多様な子どもたち一人ひとりが、豊かな未来を切り拓くために、情報や人の思いを正確に理解する「読み解く力」、さらに情報や情報手段を主体的に選択し、活用する「情報活用能力」等を育むことで、**「確かな学力」を定着させるとともに、「公共心」、「道徳心」も涵養し、郷土への愛着と誇りを育てる特色ある教育**の推進に取り組みます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 読み解く力を育成する取組の推進
- ＩＣＴ*を活用した個別最適化された教育の実践
- プロジェクト型学習によるＳＴＥＡＭ教育*の推進
- コミュニティスクール*と社会に開かれた教育課程による特色ある学校づくり
- 体験型学習の推進
- 教育ビッグデータ*の活用　等

＜まちづくりイメージ＞



4．年を重ねても健康で安心して暮らせるまち

ライフステージに応じた健康づくり

【目指す将来の姿】

あらゆる世代の誰もが自分らしく生活するためには、年齢・性別などを問わず健康であることが重要です。運動や食事などの個別の健康づくりに向けた取組をベースとして、コミュニティへの参加を通した多世代交流に加え、サイクリングロードの整備など、**住民が気軽に利用できる健康づくりのインフラ整備**を進めます。

【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 健康増進アプリの活用、普及促進
- 健康増進施設の活用促進
- 観光資源等を活用したヘルスツーリズム*の推進
- 安全で快適な歩行者・自転車空間の整備（健康まちづくりの推進）　等

＜まちづくりイメージ＞



歴史文化の薫り高いまちづくり

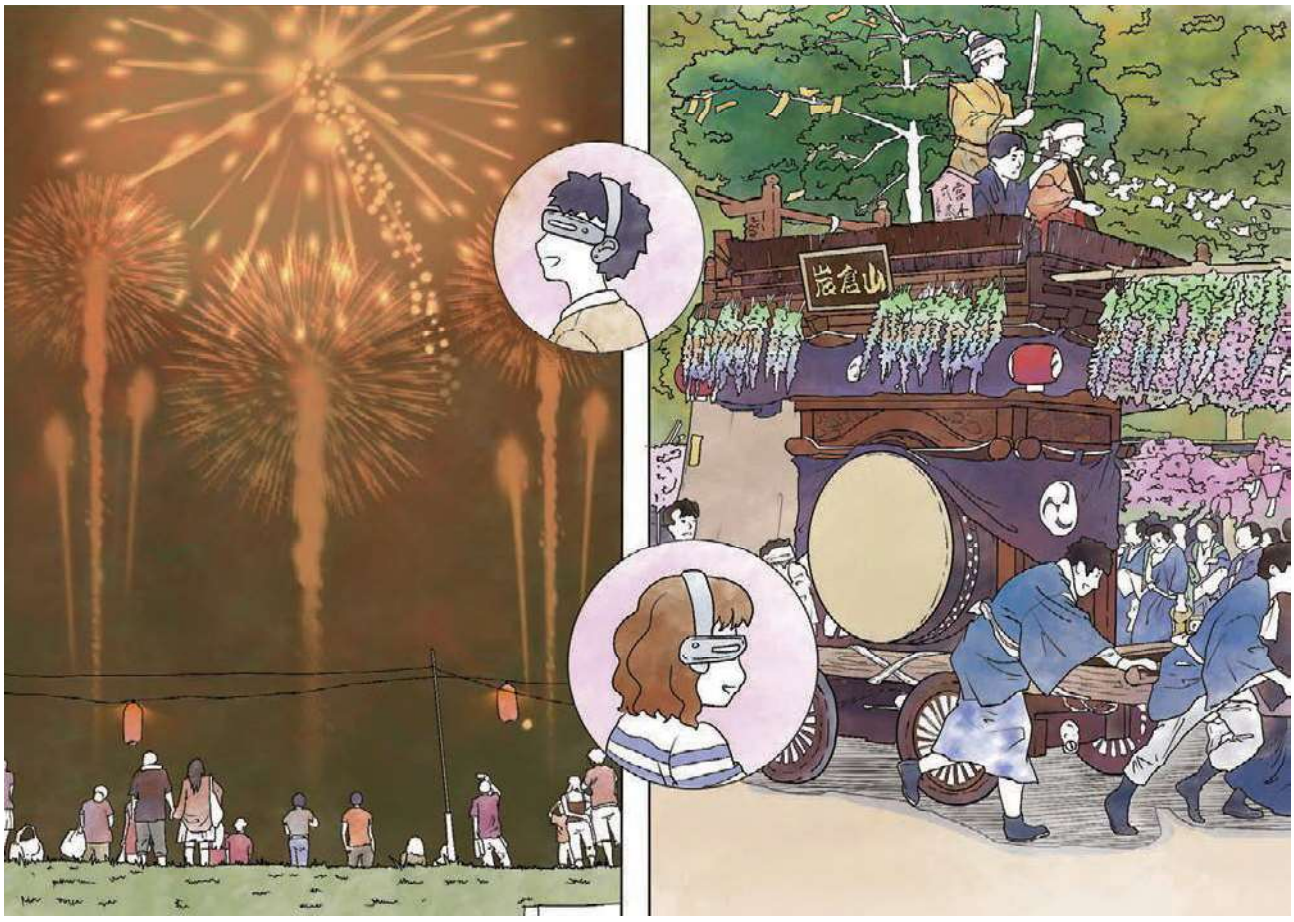
【目指す将来の姿】

歴史文化遺産にふれることは、豊かな感性を育み、心に豊かさをもたらします。ＤＸ時代の到来などライフスタイルが多様化する中、地域固有の歴史文化を次代に継承し、**まちへの愛着や誇り、心の豊かさを実感できる環境を醸成**します。

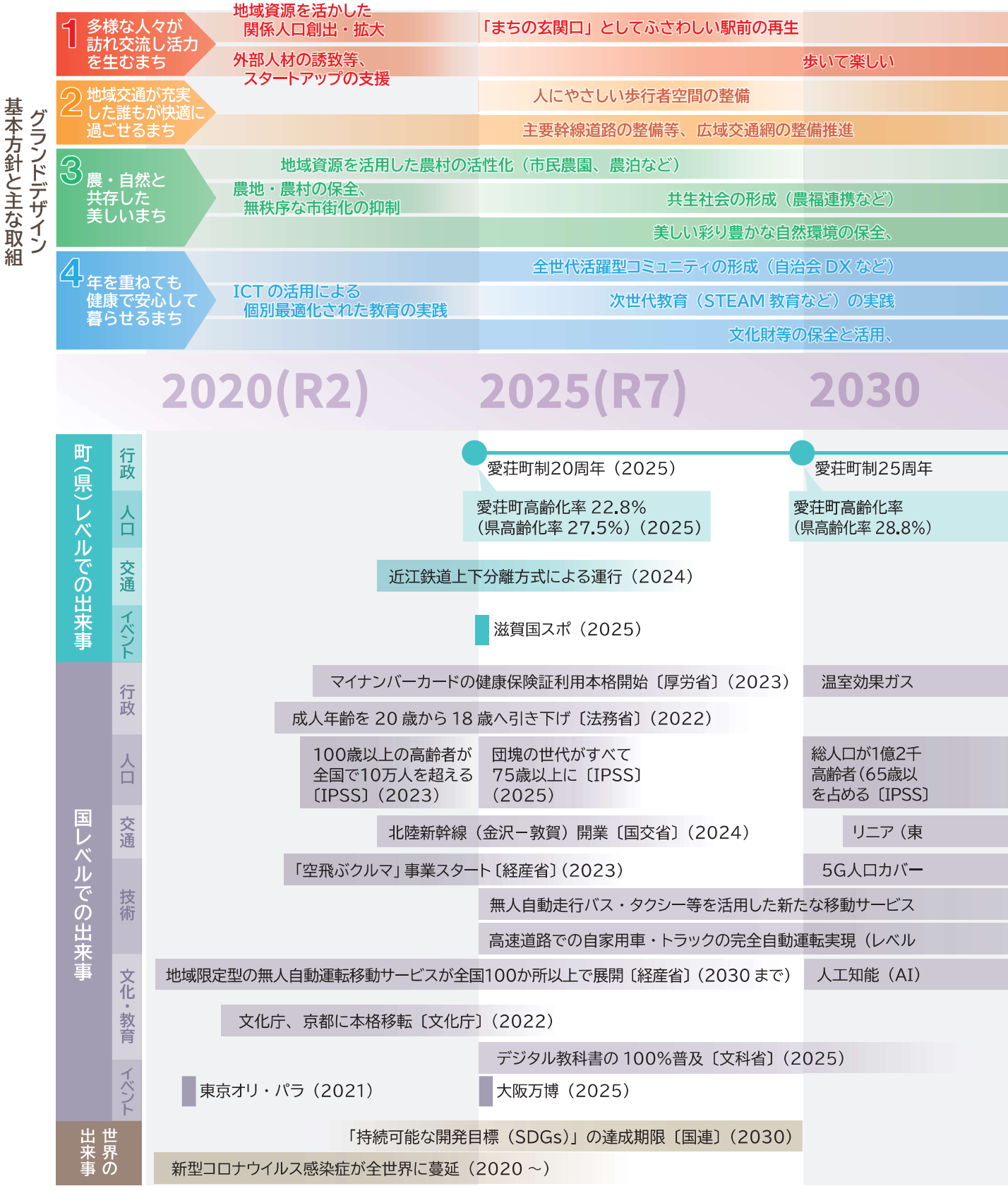
【将来像の実現に向けた取組の方向性】

- 文化財等の保存・活用
- 歴史文化遺産を活かした展示・学習の場の提供
- 郷土学習の推進
- 地域文化の発信（学校施設等へのアウトリーチ*）
- ＶＲ・ＡＲ*、メタバース*の活用　等

＜まちづくりイメージ＞



グランドデザイン実現に向けた



「未来への年表」



出典：野村総合研究所グループ NRI 未来年表をもとに作成

用語解説

AI
学習・推論・判断といった人間の知能の持つ機能を備えたコンピュータシステム。人工知能（Artificial Intelligence）のこと。

DX
Digital Transformation の略。「デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること」を意味し、インターネットやクラウドサービス、人工知能（AI）などの IT 技術等の活用を通じてビジネスモデルや組織、企業文化等を変革し、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

GX
Green Transformation の略。温室効果ガスを排出しない再生可能エネルギー等グリーンエネルギーへの転換による産業構造や社会経済の変革を図る取組。

ICT
Information and communication Technology の略で、情報や通信に関する技術の総称。

IoT
Internet of Things の略で、「モノのインターネット」と呼ばれる。自動車や家電、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す仕組み。

MaaS
Mobility as a Service の略。地域住民や旅行者等、利用者一人一人の移動ニーズに対応し、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

Society5.0
狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すもので、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。

STEAM 教育
科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術（Art）、数学（Mathematics）の５つの頭文字からなる造語で、理数教育に創造性教育をプラスした教育理念のこと。各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進する。

VR・AR
デジタル機器を用いた先端技術のひとつで、ＶＲ（Virtual Reality：仮想現実）はコンピューター上にＣＧ等で人工的な環境を作り出す技術。ＡＲ（Augmented Reality：拡張現実）は現実の風景にコンピューターで生成した情報を重ね合わせる技術。

Web3.0
「分散型インターネット」と称される次世代のインターネットの総称。巨大企業等に集約されたプラットフォームを介さずに、個人のユーザー同士で直接、データやコンテンツのやり取りができることを目指す。

アウトリーチ
「手を伸ばすこと」を意味する英語から派生した言葉で、公的機関や文化施設からの出張などを通じて地域に積極的に働きかける取組。

オープンイノベーション
企業など組織内の技術だけでなく、外部の技術やアイデアを柔軟に組み合わせることで、革新的な価値を創り出す手段のこと。

カーボンニュートラル
温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。政府は 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを宣言している。

教育ビッグデータ
デジタル教材をはじめ ICT 等を活用することで得られる学習者の学習履歴や行動履歴等の情報。

共生社会
様々な人々が、すべて分け隔てのなく暮らしていくことのできる社会のこと。

空洞化
都市中心部の人口が減少し、これを取り囲む周辺部に人口が移動、増加が進む現象。中心部の人口が減ることで、施設の移転や商店街の衰退などまちの活力の低下を招くことが懸念される。

健康寿命
日常的に介護を必要とせずに自立した生活ができる生存期間のこと。

グリーンエネルギー
太陽光・風力・水力・地熱・バイオマスなど再生可能な資源から作られるエネルギー。

コミュニティスクール
学校運営協議会制度として、学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み。

コワーキングスペース
さまざまな年齢、職種、所属の人たちが空間を共有しながら仕事を行う場所・空間。

サテライトオフィス
ICT 等を活用した、場所にとらわれない柔軟な働き方のひとつとして、企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィス。

シェアサイクル
自転車を複数の人でシェア（共有）し、必要なタイミングで自転車を利用するための仕組みや方法のこと。

シェアリングエコノミー
個人が所有しているモノや場所、スキルなどを必要な人に提供したり、共有したりすることや、そのような形態のサービスのこと。

自治体 DX
自治体がデジタル技術を活用し、住民の利便性や住民サービスを向上させていくとともに業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上に繋げていくこと。

市民農園
町民等がレクリエーション、自家消費用の野菜や花の生産、高齢者の生きがいづくりなどの多様な目的で、小面積の農地を利用して野菜や花などを育てるための農園。

スタートアップ
起業や新規事業を立ち上げること。

スマート農業
ロボット技術や ICT、AI をはじめとした先端技術を活用して、超省力化や高品質生産等を可能にする農業。農作業の自動化、情報共有の簡易化、各種データの活用等によって、人手不足の解消や高度な農業経営が可能となること等が期待されている。

総合計画
市町村における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる計画。

ソーシャルキャピタル
信頼や規範、つながりなど、社会や地域コミュニティにおける人々の相互関係や結びつきを支える仕組みの重要性を説く考え方のこと。

多面的機能
国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などといった、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能のこと。

着地型観光
団体旅行など従来の観光ビジネス（発地型）に対して、旅行者の訪れる観光地（着地）が観光客に旅行プランや体験プログラムを企画・運営する観光形態。

テレワーク
ICT を活用した、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方。

デュアルライフ
都市部と農村部といった、２つの地域に拠点をおき生活すること（二地域居住、二拠点生活）。

農村協働力
ソーシャル・キャピタルの考え方のひとつで、農村や農村・都市など複数の主体が、農村の活性化のための目標を共有し、自ら考え、力を合わせて活動したり自治・合意形成などを図る能力または機能のこと。

農泊
農山漁村地域に宿泊し、豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のこと。

農福連携
“農”と“福祉”が連携することにより、農業分野での障害者等の働く場所づくりや居場所づくりを通じて、障がい者等が自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組のこと。

パークアンドライド
マイカーなどを最寄りの鉄道駅やバス停留所に設けられた駐車場に停め、公共交通機関に乗り換えて目的地に向かう方法。

半農半X
農業と他の仕事を組み合わせた働き方で、農業を営みながら、自分のやりたいこと、やりがいのある仕事に携わるライフスタイルのこと。

ブレジャー
ビジネス（Business）とレジャー（Leisure）を組み合わせた造語。出張等の機会を活用し、出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむこと。

フレックスタイム制
従業員自身が仕事を始める時間と仕事を終えて退勤する時間を自由に設定できる制度。

ヘルスツーリズム
健康・未病・病気の方、また老人・成人から子供まですべての人々に対し、科学的根拠に基づく健康増進を理念とした旅行動態。旅行をきっかけに健康増進・維持・回復・疾病予防に寄与するもの。

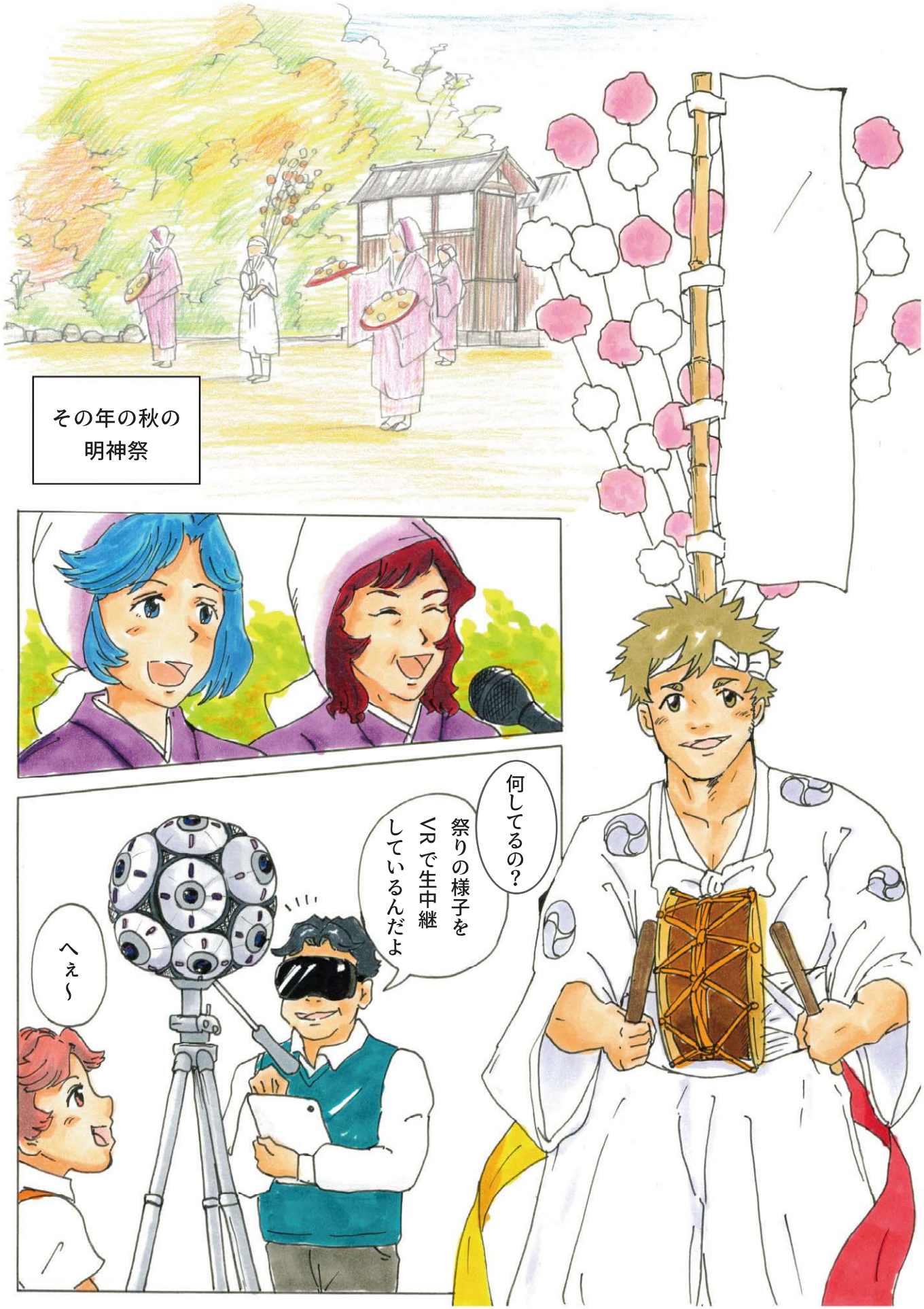
まちなかウォーカブル
中心市街地など歩いて移動できる範囲において「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を目指し、車中心から人中心の空間へと転換を図る取組。

メタバース
メタ（Meta：超越）とユニバース（Universe：宇宙）を組み合わせた造語。オンライン上に作られた３次元の仮想空間。

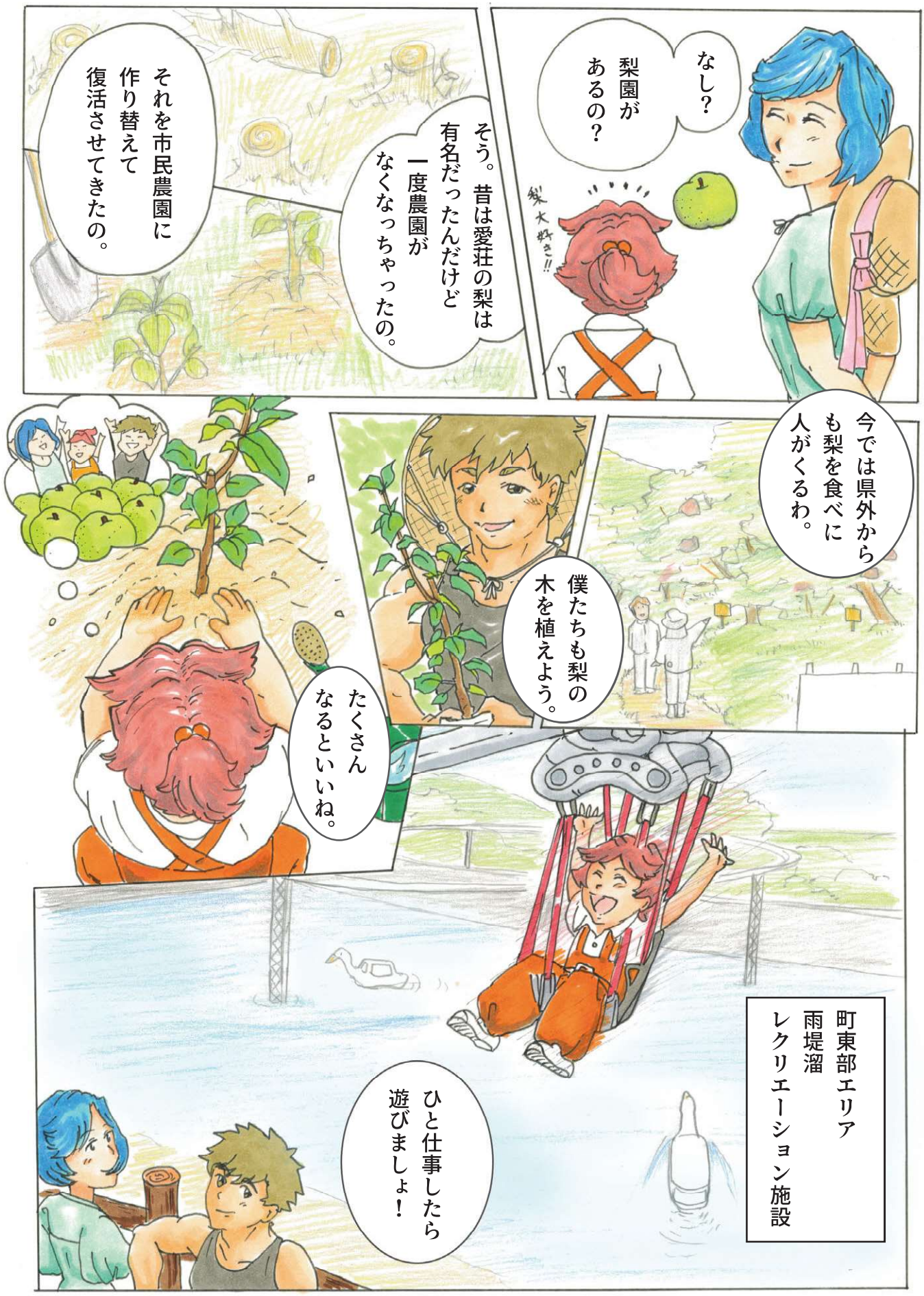
ワークライフバランス
仕事と生活のバランスがとれた状態のこと。

ワーケーション
仕事（work）と休暇（vacation）を組み合わせた造語。テレワークなどを活用して、普段の職場とは違う場所で余暇を楽しみながら仕事を行うこと。


今年もできたんやね！
体の不自由な人や、遠くに住んでいる人も…
みんなが同じ場所にいるような感覚で観られるんだ！
今年も綺麗ね！
ここは毎年変わらないね
未来ちゃん
愛荘町の一年は楽しかった？
うん！
でも
もっともっと、楽しいことが増えればいいな！
じゃあ楽しいこと作っちゃいましょう！
え
わたしたちで新しいまちのイベントを企画するの。
まちはみんなで創るもの…
…いいよ！
未来ちゃんも協力してくれる？
一緒にやろう！
続


その年の秋の
明神祭
何してるの？
祭りの様子を
VRで生中継
しているんだよ
へぇ〜


その日の夜
お父さん急いで！
花火始まっちゃう！
まかせろ！
自動運転だけどね
間に合った！
Maasのおかげで渋滞がなくなったから来やすくなったね。
きれ～い！


なし？
梨園があるの？
梨大好き!!
そう。昔は愛荘の梨は有名だったんだけど一度農園がなくなっちゃったの。
それを市民農園に作り替えて復活させてきたの。
今では県外からも梨を食べに人がくるわ。
僕たちも梨の木を植えよう。
たくさんなるといいね。
町東部エリア
雨堤溜
レクリエーション施設
ひと仕事したら遊びましょ！


町東部
エリアの
市民農園
すごーい！
スイカって
こうやって
なるんだね！
お
立派！
たくさん
採れたね
ミライ農
with エミ&ハ
あの、
すみません
愛荘の梨園は
どこですか？
ああ
そこの角を
曲がったところ
ですよ


MaaSで
自動運転車
を呼ぶね
行き先は
愛知川駅で
愛荘MaaS
Call
MaaSって愛荘町
にもあるんだ！
よし、
いいわね
わね
次は
みんなの畑ね。
ハタショウが
待ってるよ！


お邪魔しまーす！
ちょうど良かった
お、未来ちゃんいらっしゃい！
今、愛荘の麻のオンライン講座終わったところよ
愛美、びんてまりの作り方教えて！
お、そろそろびんてまり展か。
いいよ！びんてまりの館へ行きましょう。
Cafe
ここも歩道ができたわね～
歩きやすくなったね。
むずい～～
ふふ、ここからが難しいの
あ、そうだ
愛荘の麻の刺繍をギャラリーに飾りたいんだけど終わったら行っていい？
いいよ！


2040年、
愛荘町
あ！
おはよう
ハタショウ！
！
キキッ…
危ない！
ハタショウ！
わ！
…！
五年前
おはよう
未来ちゃん
気をつけてな
交通安全
うん！
安全な道に
なったな…
今日昼から
みんなの畑ね！
おう！

キャラクター紹介

マンガでよくわかる愛荘町グランドデザイン2040



ストーリー

愛荘町に小学生の未来ちゃんが引っ越してきた。愛荘町が大好きな愛美と荘悟は未来ちゃんとそう遠くない未来の愛荘町で色々な体験をする。

『I Show Aisho　そんな遠くない未来 愛荘町』

まちの魅力は、そのまちに住む人には意外と見えないものなのかもしれません。

わたしが初めて愛荘町を訪れたのは 3 年前の秋でした。第一印象は「こんな名産や名所があるまちがあったのか！」です。それくらい外部に住むわたしにとって、愛荘町は魅力に思えたのです。びんてまりや愛荘の麻といった工芸品、おいしい山芋、美しい紅葉、歴史を感じる中山道、、、一つの町で何泊も観光プランが組めるほど「まちの資源」が充実していることはなかなかありません。

よく、自身のまちのことを聞かれて「わたしのまち？何もないよ。」という人を見かけます。今回、フィールドワークをしていく中で、大人になってまちを出る人が多いんだという話を聞きました。それはもったいないな、ちょっと寂しいな、と思ったのがこのマンガ編制作のきっかけになりました。

このマンガでは愛荘町が大好きな 3 人組が登場します。特に愛美とハタショウはマンガの外でも、愛荘町の課題を自分ごとと捉えて、その解決に邁進しています。自分のまちの事を誇りに思っているのです。20 年後のちょっと先の未来、現実の愛荘町でも彼らのような人が増えていてほしい。そんな願いをマンガにこめています。

このマンガ編がグランドデザインの理解に少しでも役立てば幸いです。

2022 年 7 月

滋賀県立大学大学院　多田裕亮

I Show Aisho

そんな遠くない未来 愛荘町

